

下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療

当科では下肢静脈瘤に対する最先端治療である、血管内レーザー治療を開始しました。従来行われていた手術を要するストリッピング術という治療と比べると格段に低侵襲（体に負担が少ない）で、傷跡もほとんど残りません。平成23年に日本で保険適応となってから急速に普及しています。

下肢静脈瘤とは・・・

静脈には弁があり、通常これが正常に働いていると血液はスムーズに心臓に戻りますが、静脈の弁の働きが悪くなると静脈の逆流が生じ、これが原因で静脈が拡張し、モコモコした血管のコブを形成します。これが静脈瘤と呼ばれるものです。

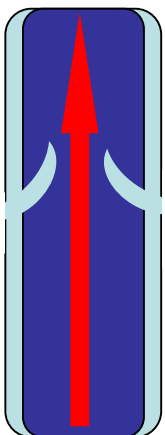
下肢静脈瘤は良性の病気で、急激に悪化したり、命にかかわるようなことはありませんが、慢性的な症状がおこり、日常生活に支障することがあります。

妊娠、出産、立ち仕事（教師、調理師、美容師、販売員など、1日10時間以上で重症化）、肥満、便秘など。また女性や高齢者に多いです。

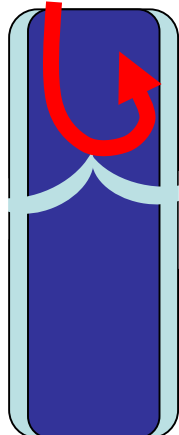
原因

正常：立位になると静脈弁が閉じるので、血液の逆流は起こりません。

（臥位）



（立位）



弁不全：足の静脈の弁に負担がかかると静脈の逆流弁が壊れてしまい、静脈が逆流します。このため下流（足先の方）の静脈に圧がかかり、静脈は太く拡張、蛇行し、モコモコした静脈瘤ができあがってしまいます。

